

<実践報告>

教員養成初期段階の学生に対する授業研究方法指導プログラムの開発
—教育実習生の授業研究会への参加を通して—

安達仁美 信州大学学術研究院教育学系

谷塚光典 信州大学学術研究院教育学系

Developing Lesson Study Training in the Early Stage of Teacher
Education Programs through Participation in Lesson Study Meetings
for Student Teachers

ADACHI Hitomi: Institute of Education, Shinshu University

YATSUKA Mitsunori: Institute of Education, Shinshu University

研究の目的	教員養成初期段階の学生に対する授業研究の指導の効果及び今後の可能性の検証を通して、今後の学部授業科目の改善やカリキュラム再編に向けて基礎資料を提供すること。
キーワード	教員養成 授業研究 授業観察 専門性発達 リフレクション
実践の内容	授業観察記録のとり方に焦点を当てた授業研究の指導
実践者名	第1著者・第2著者
対象者	信州大学教育学部1年生
実践期間	2010年～2011年
実践研究の方法と経過	「教育臨床基礎」を履修している教育学部1年次生に対して、附属松本小学校における協力授業参観に加えて、学部教員が授業研究の指導を行った。
実践から得られた知見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・教員養成初期段階の大学1年次生であっても、学生には授業研究の方法論へのニーズが高いこと ・学習指導案に基づく協力授業と適切な事前・事後指導の組み合わせによって、学生の学習を導くことが可能であること ・授業を参観している学生の関心は、子どもや教師の「意図」や「気持ち」に焦点化されていること

1. はじめに

教員養成系大学・学部における教員養成カリキュラムでは、1990年代以降フレンドシップ事業を中心に体験的なカリキュラムが多く導入されてきた。特に教員養成初期段階の1年次から、附属学校園における観察実習を中心とした内容が多く取り入れられている。太田(2005)は、1年次生を対象に、学生の授業記録の取り方と参観後の研究協議における学生の状況を分析している。また、小柳(2009)は、学部から大学院につながる体系的な観察実習指導の方法として、学部で重点的に指導する項目、学部と大学院で螺旋的に指導する項目、大学院で重点的に指導する項目を明らかにしている。

信州大学教育学部では、1年次から臨床経験科目「教育臨床基礎」を履修する(現在は、カリキュラム改訂が行われ、「教育臨床入門」の一部になっている)。附属松本学校園における教育活動に日常的・継続的に参加することを通して、子ども理解や教育に対する理解を深めた上で、自己の教育経験を相対化して教育を複眼的な視野で捉え直すとともに、学校教育現場における観察実習の基礎的な知識・態度を身につけ、教職への関心・意欲を高めることを目指している。これらのねらいを達成するために、所属学級担任の授業や教育実習生の研究授業の参観を行ってきた(村瀬ほか 2005)。また、授業参観だけではなく、学習指導案の読み方や授業参観記録の書き方の指導も合わせて行っている(安達ほか 2010, 谷塚ほか 2011)。

本研究では、教員養成初期段階の学生に対して、学習指導案の読み方、授業参観記録の書き方、授業参観時の基本的所作、事後検討会への参加方法など、授業研究方法の基礎をどのように指導すればよいのか、そして、教育実習におけるそれらの指導とどのように関連づければよいのか、附属学校園と学部で指導プログラムを共同開発することを目指している。そこで、本研究では、授業観察記録のとり方に焦点を当てた授業研究の指導の在り方、特に、教育実習の授業参観を通じた授業研究に関する指導の効果について明らかにすることを目的とする。

2. 実践研究の概要

2.1 実践の対象

本研究の対象学生は、2011年度に「教育臨床基礎」を履修している信州大学教育学部1年次生290名である。各校園の所属人数は、附属幼稚園52名(5学級)、附属松本小学校119名(12学級)、附属松本中学校119名(12学級)である。各学生は、自分の所属学級を中心に、所属校園において年間10回程度の活動に参加することになる。

2.2 全体の流れ

指導全体の流れは、表1のとおりである。附属学校と大学を拠点としながら、授業参観の事前指導、事後指導を行った。

2.3 大学での事前指導

授業を参観する1週間前には、「授業研究における授業観察の方法と子ども理解の方法」

というテーマで、大学で全体講義を行った。ここでは、主に授業研究を行う意義（授業研究が行われる意味・日本の授業研究の特徴）と、授業研究の方法（学習指導案の読み方・観察記録のとり方・授業観察をする際に心掛けること）について講義をした。授業の後半には、授業映像を使用しながら、実際に観察記録をとり意見交換を行う活動を取り入れた。

2.4 附属学校での事前指導・授業参観

参観当日のスケジュールは表2に例を示した。参観クラスは、臨床実習の配属が中学校の者は中学校、幼稚園・小学校配属の者は小学校へ行き、参観者の人数に大きな偏りが生じないように研究授業を行うクラスに振り分けられた。授業参観当日の朝には、附属教員から「授業参観のポイントと学習指導案の読み方」というテーマで、改めて授業観察をする際のポイントや学習指導案の読み方についての全体講義があり、参観する学習指導案の主眼や授業全体の流れについて確認をした。

2.5 大学での授業研究会

授業参観後は大学にもどり、参観授業の授業研究会をおこなった。初めての授業研究会となるため、授業を検討する視点を定めることができるよう、ワークシートを配布し自分の意見や疑問を整理する時間を設けた。その後、3～4名のグループに分かれ、ワークシートに記入した内容にそって、観察記録を用いながらディスカッションをおこなった。

表1 指導全体の流れ（附属松本小の場合）

	内容	場所
事前指導	講義 「授業研究における授業観察の方法と子ども理解の方法」	大学
	講義 「授業参観のポイントと学習指導案の読み方」	附属松本小
授業参観	教育実習生の授業を参観	附属松本小
事後指導	参観授業の授業研究会の実施	大学
	教育実習生の授業研究会を参観	附属松本小

表2 参観当日のスケジュール（附属松本小学校の場合）

8:50～ 9:00	受付	附属松小
9:00～ 9:30	講義「授業参観のポイントと学習指導案の読み方」	附属松小
9:40～10:25	研究授業参観（終了後、大学へ移動）	附属松小
10:40～12:10	授業@20番教室 参観授業の授業研究会	大学
12:10～16:10	昼休み／3限／4限（附属学校へ移動）	大学
16:30～17:30	教育実習Ⅱ研究授業の授業研究会の参観	附属松小
17:35	大会議室で、感想記入用紙を記入・提出後、下校	附属松小

表3 事後検討会のワークシートの項目

1. 3つの観点から授業を参観した感想を書きましょう。
 - ・授業者の手立てと支援
 - ・児童・生徒の学び
 - ・教育実習の様子
2. 参観した授業に関して、授業者に質問するとしたら何を質問したいですか？3つ挙げてみましょう。
3. 2. で挙げた3つの質問に関して、授業者の回答を予想して、自分の意見を書いてみましょう。

発言する際には、抽象的にならないように、授業場面や時刻などを明示し、そこでの教師と子どもたちの具体的な動きや発言・発問などの事実と共に自分の意見を述べるように指示した。

2.6 教育実習の授業研究会の参観

小学校参観者内の希望者は、夕方から附属松本小学校行われた授業研究会を参観した。

3. 調査と結果

3.1 観察記録に関する事前指導と成果について

大学での事前指導では、初めて授業を参観しながら観察記録をとる1年生のために、観察記録をとる意味や、記録のとり方についての講義をおこなった。観察記録をとり方については、ノートとクリップボードを用意し、記録をつける際には多色ボールペンを使用すること、全てを記録しようとせず、子どもと教師の姿や発言を記録ながら、気づいた点や疑問に思った点、意見などを記録すること、また、授業の流れに置いて行かれることないように、消しゴムは使用せず、記号や絵などを用いて記録をとってもよいこと、時刻を記入することなどを伝えた。また、授業をみる視点としては、「子どもの学び」については、一人の子どもの個の動き（発言、つぶやき、しぐさ、表情、目線）や友達や教師との関わり（問いかけ、対話、反応）に着目しながら、学びの過程を記録すること。また、「授業者の手立てや支援」については、教室全体や個々の子どもに対する言葉や動き、板書や提示された資料・教材を記録することなどを伝えた。それらを講義した上で、授業の映像記録（小学校・国語）を用いて、実際に授業をみながら記録をとる演習を行った。予め編集された映像を観ながらのため、実際の授業観察とは状況が異なるが、止まることなく進む授業の中で、同時に起こる子どもの発言や教師の動きとらえ、記録に残していくという感覚を実感する機会とした。

演習の授業参観で書かれた記録の一事例を図1に示した。演習で書いた観察記録は初めて書いた記録であるが、項目ごとに子どもと教師の動きや発言、時刻が示されており、矢印を使うなどして授業の動きを分かりやすく示し、考察の欄に気づきや疑問点などを書き込むなど講義の内容を踏まえて記録をしている様子がうかがえる。

(表 1)	6月15日(火)第2時	6年東国社会	科	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習	子 どもの 動き	考 察
授業者	田中 浩二	田中 浩二	田中 浩二	田中 浩二	田中 浩二	田中 浩二
授業内容	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習
授業者	田中 浩二	田中 浩二	田中 浩二	田中 浩二	田中 浩二	田中 浩二
授業内容	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習
授業者	田中 浩二	田中 浩二	田中 浩二	田中 浩二	田中 浩二	田中 浩二
授業内容	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習
授業者	田中 浩二	田中 浩二	田中 浩二	田中 浩二	田中 浩二	田中 浩二
授業内容	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習	現代・国語・算数・理科・社会・環境・総合・学習

図2 授業参観で記された記録の一事例

3.2 参観後の授業研究会の実施と成果について

(1) 事後アンケートの結果から

授業終了後に事後アンケートを実施し、下記に示した12の設問に対して5件法で尋ねた。290名中281名からの回答があった。結果は図3のとおりである。

- ①子どもたちの学びの姿がわかった
- ②自分の教育実習への意欲が高まった
- ③臨床経験科目での私の今後の課題を明確にできた
- ④授業観察記録をしっかりと書くことができた
- ⑤配付された指導案から授業の内容を把握できた
- ⑥授業研究の方法やマナーがわかった
- ⑦このような機会があれば、次回も参観したい
- ⑧6月7日（火）の大学での講義が役に立った
- ⑨当日の参観前の附属での講義が役に立った
- ⑩授業後に参観授業について実習生（授業者）と話をしてみたい
- ⑪授業後に参観授業について実習生（参観者）と話をしてみたい
- ⑫授業後に参観授業について他の学生（参観者）と話をしてみたい

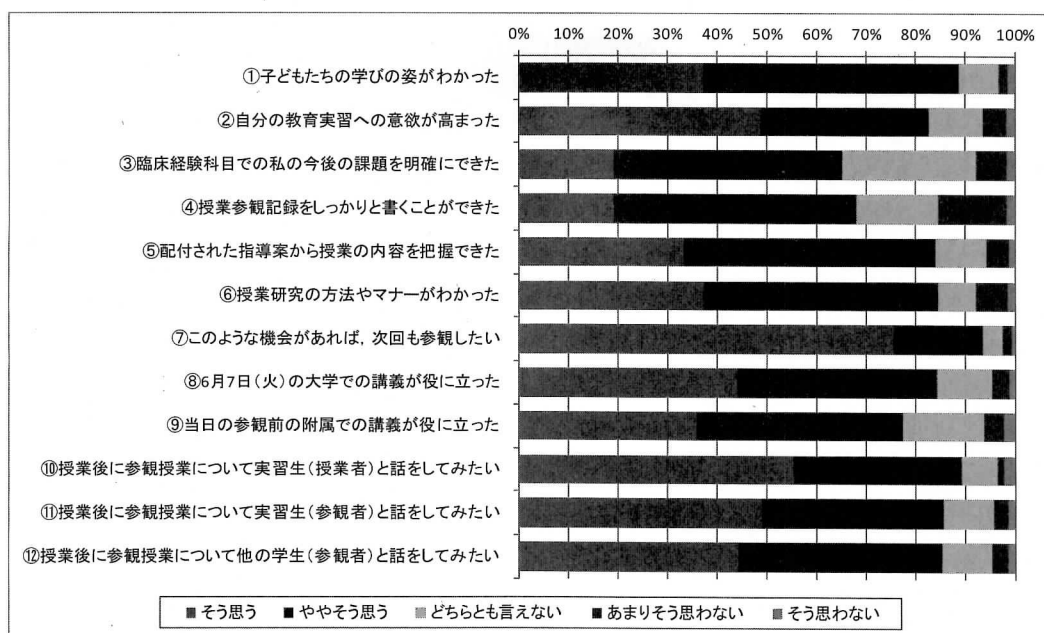


図3 事後アンケートの結果

「そう思う」「ややそう思う」という肯定的な意見が多かった項目は、①子どもたちの学びの姿がわかった（89.0%）、⑦このような機会があれば、次回も参観したい（93.6%）、⑩授業後に参観授業について実習生（授業者）と話をしてみたい（89.3%）であった。一方で、肯定的な意見が少なかった項目は、③臨床経験科目での私の今後の課題を明確にできた（65.1%）、④授業観察記録をしっかりと書くことができた（68.0%）であった。

(2) 振り返りアンケートの記述から

述式で回答を求めた。

1. 大学での事後検討会で学んだこと
2. 先輩の授業研究会を参観した感想（該当者のみ）
3. 次の授業参観で、どのように活かしたいか

「1. 大学での事後検討会で学んだこと」に関しては主に、多角的な視点で授業を捉えることの重要性を実感したという回答、新たな課題を見出した回答、授業研究会の意義を実感する回答がみられた。

<多角的な視点で授業を捉えることの重要性の実感>

- ・仲間との意見交換を通して、自分からは見えていなかったことや、感じなかったことも友達はしっかり授業でキャッチしていて凄いなと思いました。もっと広い視野で授業を見ていかなければいけないと感じました。
- ・私は教師の授業の進め方や行動を見ていたが、ほかの人は生徒の様子、学習カードの扱い方など自分とは違う視点で見ていたので、とても参考になった。これからは一点だけを見るのではなく、様々な視点から授業を見ていきたい。

<新たな課題の獲得>

- ・私は今回、うまく観察記録票を書くことができなかったけど、友達の記録票を参考にしながら、今度は全体ではなく一人の生徒に着目していきたいと思う。
- ・着目する点が自分と同じ人もいるけれど、自分とは違う点に注目していた人の話を聞くとても勉強になると思った。次は別の切り口から見てみようと思った。
- ・みんなの観察記録票も見ることができ、次回からへの参考になりました。

<授業研究会の意義の実感>

- ・意見交換を通して、あまり気にならなかったことにも改めて目をむけることができたので、もっと仲間と教育のことに関して話し合っ意見聞きたいと思った」
- ・やはり、一人だけで反省すると、自分一人の狭い視点でしか捉えられない部分もあると思うので、仲間と話あうのはいい刺激になるし、視野も広がると思った
- ・授業の内容や注目すべき点について話し合い、意見を聞くことの大切さを感じました。

「2. 先輩の授業研究会を参観した感想（該当者のみ）」では主に、自分が行った授業研究会と比較し省察した回答、将来に対する意欲を示した回答がみられた。

<自分が行った授業研究会との比較と省察>

- ・今の自分たちでは、気づかないような点まで指摘し合っていて、本当に先輩のすごさを間近に感じることができて、もっと頑張ろうと思えるようになりました。
- ・私はまだ表面しか見ていないと感じた。先輩方はもっと細かく児童を観察していた。また、指導教官の先生は先輩方以上に細かく見ていて、納得させられることが多かった。
- ・同じ授業を見ていたはずなのに、自分では気が付かなかった授業の良かった点や改善

点がたくさん挙げられていた。鋭い意見もありとても学ぶことが多かった。

＜将来に対する展望と意欲向上＞

- ・さすが4年生ともなると、目を付けている箇所が違うなど感じた。とても些細な事でも意見を出し、自分の考えも持っていて凄いなと思った。私も3年後にはあんなふうになれていたらいいなど意欲を出すことができた。
- ・第一に先輩たちの真剣さがすごく伝わってきて将来は自分もこのように真剣に実習に向き合わなければならないのだと強く感じた。
- ・自分も2・3年後にはこんな風に子供たちの行動や発言について学び、活発に意見交換をなせるようになっていたいと思った」などの

「3. 次の授業参観で、どのように活かしたいか」に関しては主に、一人の子どもに着目したより細やかな授業観察を課題とする回答や、分かりやすく詳細な観察記録をとることを課題とした回答がみられた。

＜一人の子どもに着目したより細やかな授業観察＞

- ・児童の微妙な行動や表情の変化を先生や先輩方はとても細かく観察していて、自分も見習いたいと思いました。
- ・子どもの心の変化を見ることができるようになるために、小さなつぶやきや表情など細かいところにも注目するようになる。
- ・今回は一人の子に焦点を当てて書いていたが、その子の些細なつぶやきや行動を見逃すことがあってうまく書けなかった。次回は些細なことも観察したいと思う。

＜分かりやすく詳細な観察記録＞

- ・とにかく書くに必死になり、ひとりの児童に焦点をあてることや、色ペンの使い分けが全くできなかったのもっと落ち着いて観察できるようになりたいです。
- ・今回、初めてということもあって、最初の講義のような授業観察記録を作ることができなかった。色ペンなどをうまく使うことができなかった。後で先輩方の記録のとり方を見て学んだので、次からはうまく参観できるようにしたい。
- ・どんな言葉で書いたら後々見やすいか、どこを重点的に見たら良いか、ペンの色分けはどうやったらいいか等、現役の先生方や先輩方からよくお話を聞いて、自分にあったやり方を模索していきたい。

4. おわりに

教育実習の授業参観を通した授業研究に関する指導の成果について、観察記録に関する指導と、参観後の授業研究会に関する指導からまとめると、次の2点をあげることができる。

まず1点目は、学部1年次生であっても、3年次・4年次に履修する教育実習を見据えつつ授業研究方法を段階的に指導することによって、学習指導案の読み方を身につけたり、自分の意見も記入しつつ授業観察記録をとりながら授業参観したりすることができる点で

ある。学生が記入した実際の観察記録票を見てみると、授業の事実をしっかりと記述しようとしている様子を見ることができた。また、実際の授業で観察記録をとることを通して、多色ボールペンを効果的に活用しながらより分かりやすく詳細な観察記録をとることの意味を理解し、次の授業参観への意欲を高めていた。

2 点目は、参観記録をとりながら授業参観することに加えて、授業研究会に参加することが、多角的な視点で授業をみることの重要性の実感や、新たな課題の獲得へとつながる点である。さらに、教育実習生の授業研究会の参観が、将来の教育実習に対して展望しながら意欲を高めることにつながっていた。

以上のように、教育実習参観を取り入れた授業研究指導によって、教員養成初期段階の1 年次から授業研究力を高めていくことができ、2 年次以降の「教育実習」や「教職実践演習」等の臨床経験科目の履修に体系的につながっていくこと可能性が本実践よりわかってきた。

文献

安達仁美，八木雄一郎，西一夫，谷塚光典，小島豪，中村深志，佐々木秀，2010，教員養成初期段階の学生に対する授業研究方法指導プログラムの開発－附属学校園における臨床経験科目の体系化に向けて－，平成 22 年度日本教育大学協会研究集会発表概要集，pp.34-35

安達仁美，八木雄一郎，西一夫，谷塚光典，三澤雅志，中村紗矢香，丸山剛生，2011，教員養成初期段階の学生に対する授業研究方法指導プログラムの開発（2）－教育実習生の授業研究会への参加を通して－，平成 23 年度日本教育大学協会研究集会発表概要集，pp.38-39

村瀬公胤，谷塚光典，三ツ井邦仁，2005，教員養成初期段階における授業研究指導の試み－学部と附属の連携による臨床基礎実習生の指導のあり方の検討－，教育実践研究（信州大学教育学部附属教育実践総合センター）6，pp.141-150

太田伸也，2005，一年次教職科目「教職入門」における「教育実習観察」の効果と課題についての一考察，教員養成学研究 1，pp.37-46

小柳和喜雄，2009，学部から大学院につながる体系的な観察実習の方法，学校教育実践研究（奈良教育大学教職大学院研究紀要）1，pp.79-86

谷塚光典，安達仁美，小島豪，中村深志，佐々木秀，2011，「教育臨床基礎」を通して学生に身につけてほしいことを身につけるための活動の設定，平成 22 年度信州大学教育学部 学部・附属共同研究報告書，pp.118-125

（2014 年 6 月 30 日 受付）